

生と生殖に関する健康と権利
～若い女性のエンパワメント～

雀部真理

(日本YWCA運営委員／人権ジェンダー委員長・大阪YWCA会員)

◇自己決定に始まる包括的性教育

1980年代後半、大阪YWCAの国際部担当職員として、世界YWCA機関誌『コモン・コンサーン』の翻訳チームに関わっていたとき、誌上で紹介されていたジャマイカYWCAの『NEETプロジェクト』に心惹かれました。NEETはTEENを逆さにした名称で、10代の少女たちのための、今でいう包括的性教育プログラムでした。

90年代に、ソロモン諸島YWCAで少女対象のトレーニングプログラムを企画したとき、このNEETプロジェクトのカリキュラムを大いに参考にさせていただきましたが、その最初の項が「自己決定」でした。今日何を着るか、誰と出かけるか…、私たちの生活は小さな決断の連続。一人ひとり自分の人生の決定者なんだよ、というところから始まるのです。そして、自分の気持ちを大切にすること、自分のからだを大切にすること、自分の権利を知ること、困ったときは助けを求めること…などなどなど。

unexpected pregnancyをどう訳すか。この話題が今ほど一般的でない中、予期せぬ妊娠、望まない妊娠…など、迷いながらの作業。性知識や避妊手段や対等な関係性がない中で一方的に少女の側に生じる妊娠という結果を、どう防ぐか。その答えが「自己決定に始まる包括的性教育」と理解しました。

◇SRHRとRise Up!

性と生殖に関する健康と権利。英語 [Sexual and Reproductive Health and Rights] の頭文字からSRHRと表記されるこの概念は、基本的人権の一つであり、世界YWCA発行の*『^{ライズ}^{アップ}Rise Up!グローバルガイド』の中心テーマの一つでもあります。

このガイド本を手掛かりに、世界YWCAに加盟する多くの国・地域YWCAで、Rise Up!の取り組みが広がっています。少女たちに「立ち上がれ!」と呼びかけ、単なるリーダーシップではなく、transformative

leadership = 社会を変えていく、変革への力となるリーダーシップを育てようとしているのです。日本のYWCAでも、2019年にCSW（国連女性の地位委員会）に派遣されたユースを中心に、東京を含むいくつかの地域YWCAでRise Up!の活動が始まっています。SRHR以外のテーマを扱うチームもありますが、中高生に対して、**Rise Up!**と呼びかけ、変革のためのリーダーシップを培っているのは共通です。

◇プロライフ／プロチョイス

米国のいくつかの州で進む妊娠中絶非合法化の動きが注目されます。キリスト教右派を中心に、受精が生命の始まりと考え、「生命尊重」ゆえに妊娠中絶に反対するプロライフ派。妊娠・出産については女性本人に選択権があると考え、妊娠中絶を権利とするプロチョイス派。この二者対立と捉えられますが、プロチョイスが生命を軽んじているわけではありません。産むことを選べない事情や、男性の無責任さの結果としての妊娠を女性だけが背負う理不尽さの中、たとえ自分の信条が生命最優先であっても、それを他者に押し付けてはならない、権利は保障すべきというのがプロチョイスだと考えます。米国YWCAは長年プロチョイスの立場を明示し、運動の中に位置づけ、常に声を上げています。

◇日本のYWCAの今とこれから

2020年の全国総会で日本YWCAは、平和で公正な社会を女性のリーダーシップで実現するビジョンを掲げ、そのためにすること(=ミッション)を若い女性のエンパワメントと決めました。加盟するすべての地域YWCAが、このミッションに立って力を合わせるができるよう推進するのが、日本YWCA人権ジェンダー委員会の任務と考え、日夜励んでいます。

日本のYWCAの中では、SRHRは比較的新しいテーマのように思われますが、世界のYWCA運動の中では、あらゆる女性のエンパワメントのいわば1丁目1番地として長年取り組まれています。このことへの思いを強め、全国の仲間と共に手を携え、励まし合って進んでいきたいものです。

*『若い女性の変革をもたらすリーダーシップのためのグローバル・ライズアップ(Rise Up)・ガイド』